



世界の地域から

ロンドン 「クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク」 (イギリス)



クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク (Queen Elizabeth Olympic Park) は今年4月5日にリニューアル・オープンし、市民の憩いの場となっています。



2012年の夏に開催されたロンドン・オリンピックの熱戦の舞台が改装を終え、「クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク」として2014年春に全面開放されました。現在は工事中の箇所を除き、誰でも自由に歩くことができ、多くの家族連れなどで賑わっています。産業廃棄物による汚染問題に加え、伝統的に失業や犯罪などの問題を抱えた貧困地区でもあったこのロンドン東部のストラットフォード (Stratford) 地区にとって、ロンドン・オリンピックは地域再生の機会として位置づけられていました。この地区の大規模な都市再開発計画は現在も進行中で、最終的な完成は2030年が目標と言われており、今後の開発についても注目されています。

ロンドン・オリンピックのレガシー (遺産) についての詳細は、ロンドン事務所マンスリートピック2013年10月号をご参照ください。 http://www.jlgc.org.uk/jp/information/monthly/uk_oct_2013_01.pdf

= CLAIRメルマガ読者募集中! =

観光、物産、交通、IT、環境など海外お役立ち情報満載のメールマガジンを好評配信中
右の二次元バーコード、または“CLAIRメルマガ”で検索、登録をお願いします





ロンドン・オリンピックでは競泳及び飛び込み競技会場として使用されたアクアティクス・センター (Aquatics Centre) は、東京の新国立競技場をデザインした建築家、ザハ・ハディットが手がけた流線型の屋根が印象的な建物です。



©The Olympic Delivery Authority (ODA)

アクアティクス・センターは市民向け公共プールとして2014年3月から開放されています。



オリンピック・スタジアム (Olympic Stadium) はイングランドプレミアリーグのサッカーチーム「ウェストハム・ユナイテッド」の本拠地として2016年の再オープンに向け、現在工事中です。



©The Olympic Delivery Authority (ODA)

高さ114.5mのアルセロールミッタル・オービット (ArcelorMittal Orbit) は英国で一番高い彫刻で、地上76mと80mの2か所に展望台が設置されています。



©The Olympic Delivery Authority (ODA)

カッパー・ボックス (Copper Box) はハンドボール、フェンシングなどの競技場として使用された後、2013年7月にパーク内で最も早く再オープンしました。



カッパー・ボックスはバドミントン、バスケットボール、ハンドボールの競技場やスポーツ大会の会場としての使用が可能です。



©The Olympic Delivery Authority (ODA)

自転車用トラック会場ヴェロドローム (Velodrome) 内の屋内コース、屋外コースともに一般に開放されています。



パーク内を流れるリー川 (River Lee) の川岸のプロムナードも整備され、散歩コースに最適です。